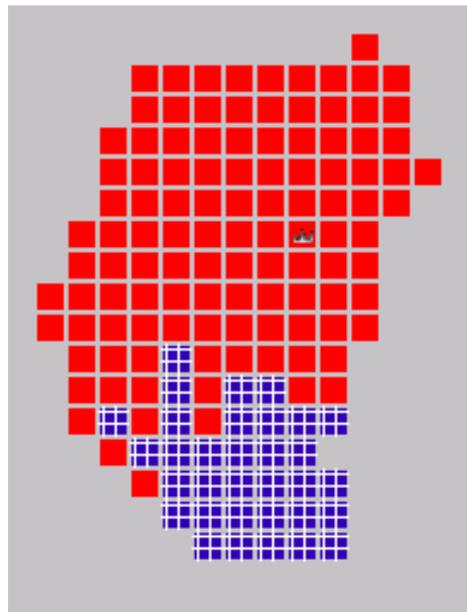
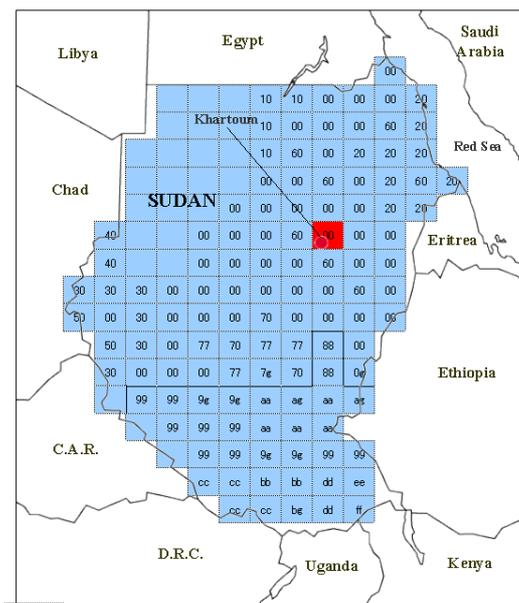


反乱の生態学 ～KK-MAS を用いた内戦モデル～

東京大学大学院総合文化研究科
阪本 拓人

本発表では、国家内における武力紛争の動態を分析対象とする KK-MAS モデル「反乱の生態学的モデル」を用いて、現実の内戦を近似的に再現する試みを紹介する。目的は、民族や階級などの集合的な分析単位を必ずしも前提としないダイナミックな紛争理解の論理を構築することである。

事例は 83 年から 20 年以上続くスーダンの内戦である。分析は、下図左側のような形でコード化されたスーダンの言語・宗教分布をモデル内に読み込み、コンピュータ内に「仮想スーダン」を構築することから始まる。その上で、下図右側のようなモデル上の紛争展開を追いながら、住民の間にどのような反政府組織が根付きやすいのか、またその結果、国家の領域支配はどのように引き裂かれていくのかといった問題を検討していきたい。



反乱モデルは、政府や反政府組織などの政治・軍事組織——「軍閥」——と多様な属性で差異化される住民集団——「共同体」——がごく単純なルールに従って重層的な相互作用を展開するものだが、このモデルの論理によって、今日のスーダン内戦に見られる以下の三つの主要な側面を、相互に結び付けた形で大掴みに理解することが可能になる。

- ・政府と反政府組織との間での長期にわたる領域支配の分裂
- ・民族的・宗教的な偏重著しい政権と、民族的・宗教的に無差別な組織との対峙状況
- ・民族的・宗教的に無差別な組織が直面するインテグリティ喪失の危機